

行方不明の夫に宛てたラブレター

鍋島直樹 龍谷大学文学部教授



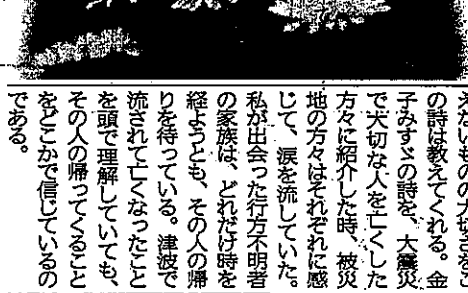
2011年(平成23年)賞した。約9000通のラブレターを知り、感動した。この恋文を「縁動」として、2011年から菅原さんへ家族と交流を続けている。

愛する人が行方不明と。死は真の愛情についてより深く考えさせてくれる。私は、東北の被災地に住む菅原さんや多くの遺族を訪ね、色紙に言葉を書いて届けた。「愛する人は教えと

星とたんぼ

金子みすゞ

青いお空の底ふかく、海の小石のそのように、夜のくるまで沈(しず)んで、星のお星は眼(め)に見えぬ見えぬけれどもあるんだよ、見えぬものもあるんだよ、



星に星が見えないから、夜の星はいつそう輝いて感じる。タンポポは冬に姿が見えないから、春に桜の下で咲く小さなタンポポを見つけたら、それは震災から一年と元気づけられる。愛情と優しさが眼には見えなくても、人にぬくもりを

菅原さんからの手紙 菅原文字さんが行方不明の夫にラブレターを書いたから、長い時間が流れた。それは震災から一年三月月を経たある日のことであつた。菅原文字さんから一通の手紙が届いた。そこには驚くべきことが記されていた。彼女の了解を得て、ここにその手紙の一部を紹介したい。

あなたへ

ひぐらしがうるさい位鳴いています きょうは八月二十一日 日曜日 お盆を過ぎて、街は静かになりました あなたが突然いなくなって五カ月と十日 もう五カ月 まだ五カ月ととても複雑です あの忘れようにもわすれられない 東日本大震災が起きました



平成二十三年八月二十一日 菅原 文字 菅原 豊和様へ

どんなに誰かを愛して見守ってあげることが、今ここに生きていても、いつか別れがある。めぐる季節の中で、しかし、死別した後、あつ、花の香り、雨の匂いで、その人がこの世に存在していた姿がのこされ、土砂降りの雨、風に舞う花びら、いつかきつと新しい幸せの花を咲かせることができたろう。

- 「負けぬぞを仙沼」 気仙沼・男山の酒造 菅原文字 すがと酒店 伏見男山 辛口 4合瓶・1250円 1升瓶・2300円 (02)226-1241